

## 本省課長補佐級

## 「単身子連れの働き方」

一日のタイム  
スケジュール 例

4:45	起床、子供と共に朝食
6:00	スクールバス見送り後、地元紙朝刊チェック
8:00	出勤（執務室内では、常に地元テレビ報道専門チャンネルをON）
12:00	和食レストランで国会議員と会食
14:30	帰館後、記録作成、照会対応
18:30	帰宅、子供と共に夕食
20:45	就寝

りましたが、育児を通じて人間としての力が鍛えられました。復帰当初は、単身での両立への不安から4時間勤務から始めましたが、仕事により育児ストレスがリセットされ、子供に会えば癒やされました。配属先は自分が何ら専門性を持たない事項を扱う課でしたが、組織の一員として可能なことをできる限り行いつつ、自分の不在時も組織の機能が損なわれないバックアップに常に留意しました。子供の成長に合わせて勤務時間も年々増やしましたが、単身で双方の親も地方在住の私にとって、次なる壁は

育児支援制度が終了する「就学」でした。このため、家事補助者雇用が容易な東南アジアへの転勤を希望しました。10年ぶりの大統領交代を挟む政治的に重要な時期にインドネシア大使館で内政を担当し、中堅専門職として責務を果たせる充実感は大きなものでした。働き方も中堅故に柔軟にでき、深夜残業が常だった前回と異なり、朝の早い現地の生活に合わせ、会食は朝食・昼食中心、移動の車中等隙間時間を活用し、必要があれば朝早く出勤するという朝型を実践しています。生活面では、「おばあちゃん」機能を果たしてくれる住み込みの家事補助者の確保に努め、最終的に良い人に巡り会い、大使公邸での会食同席や出張等留守にする場合は子供を任せています。子供は、低学年の頃は、常に家にいる友達の母親（駐在員夫人）と比べ寂しさを吐露することもありましたが、学年が進むと、通訳業務を控え勉強する私を励ましたり、むしろ母の仕事を誇りに思っている言動が見られ、仕事へのモチベーションにつながりま



## 単身子連れの在外公館勤務

した。なお、私の復職以来、夫とは別居となりましたが、東京での3年間は毎週末が上京したため、平日は子供と会える時間には帰宅しない夫を持つ家庭と大差ないと捉えていました。ジャカルタと大阪に離れた現在も、子供の学校行事に合わせ毎月のように往來しています。日々の子供との幸せな生活を私が独占している「罪悪感」も感じませんが、精神的な絆を重視する1つの家族の形と捉えています。今後、その時々々の家族の事情に合わせて、自分なりの均衡点を模索していこうと考えています。



## 独身・単身時代

インドネシア語専門職員として入省2年目から7年間インドネシアに赴任しました。地方での下宿生活だった語学研修中は、アジア経済危機がインドネシアにも波及し、スハルト長期政権に対する不満が鬱積する時期と重なり、続いての大使館勤務中は、ジャカルタ暴動に伴う在留邦人退避やスハルト政権崩壊後の民主化プロセス等インドネシア史に残る出来事に遭遇しました。巡り合わせとは言え、インドネシ

ア語専門職員としてこの体験は後のかけがえない財産となりました。大使館勤務後は地方勤務を希望し、マカッサル総領事館に異動しました。総領事を含め4人の小公館で、副担当も含めると総領事館業務ほぼ全てを網羅していました。私生活では、マカッサル勤務中に結婚しましたが、夫は大阪在住のため生活は変わりませんでした。帰国後の本省では、1人班の東ティモール・ブルネイ班として両国との2国間関係を担当しました。東ティモールの国造り支援や皇太子殿下のブルネ



## 単身子連れの本省勤務

イ御訪問の同行が印象深く、また、この間も要人通訳や津波被災支援のための3週間のアチエ出張等、インドネシアに携わる機会もありました。インドネシア班に課内異動した矢先、双子妊娠が判明し、終電帰りが常態化した長時間勤務を改めました。



外務省  
在インドネシア日本国大使館政務部一等書記官

まつしろ か つ み  
松代 佳津美

Katsumi Matsushiro

## Profile

- 平成7年 外務省入省（外務省専門職員（インドネシア語専門職）採用）
- 平成8年 在外研修員（インドネシア語）国立ガジャマダ大学（社会政治学修士号取得）
- 平成10年 在インドネシア日本国大使館三等書記官  
総務班を経て、政務班で民主化プロセス等内政を担当
- 平成12年 在マカッサル日本国総領事館副領事  
政務、経済協力、広報文化、領事業務等幅広く担当
- 平成14年 ～結婚（夫は大阪在住のため別居のまま）
- 平成15年 アジア大洋州局南東アジア第二課事務官  
ブルネイ・東ティモールとの二国間関係全般を担当
- 平成18年 ～出産  
育児休業（3年）（大阪在住の夫と同居）
- 平成21年 北米局北米第二課事務官  
日米財界交流等担当  
早出勤や育児時間を利用して、5時間勤務から7時間勤務へ
- 平成24年～現在 在インドネシア日本国大使館政務部一等書記官  
内政担当

※経歴一部省略

## Message

## 女性職員へのメッセージ

出産や育児を通じて、リスク管理、時間管理、忍耐力など、その後の仕事にも有益な能力が備わります。結婚や出産のタイミングは人それぞれですが、チャンスと捉えて「両立」を楽しみましょう！